

福山市

2016年度 第1号



# 青少年センターだより

青少年センター  
広島県福山市東桜町3番5号  
(福山市役所青少年課内)

TEL 084-928-1046

FAX 084-928-1229

E-mail seisyounen@city.fukuyama.hiroshima.jp

## 福山市青少年自立支援事業のご紹介

近年「大人・若者の引きこもり」といった言葉が多く聞かれる中、全国的に外に出られない、出にくい若者が多くなっており、社会問題のひとつとなっています。

こういった状況の中、青少年課では福山市勤労青少年ホームとともに、「学校や社会に馴染みにくい」「目的が持てない」「進路が決まらず自宅で過ごしている」「自宅に引きこもりがちな状態から一步を踏み出したい」など、様々な思いを抱えている青少年を対象に、社会体験活動プログラムへの参加を呼び掛けています。

この社会体験活動プログラムは、福山市青少年自立支援事業の一環であり、毎年5月から2月までの約1年間で実施しています。青少年の皆さんには、創作活動やボランティア活動、職場体験などに参加していただくことで、周囲とのコミュニケーション能力の向上や、社会への関心を高めることなどで、社会参加へのきっかけになればと考えています。



過去のプログラム参加者からも、就学・就職をした、他人との交流ができるようになった、何事にも前向きに取り組むことができるようになったなど、様々な声も届いています。

今年度の社会体験活動プログラムは既に始まっていますが、途中からの参加や、興味のあるプログラムのみでの参加も可能です。興味を持たれた方、内容を詳しく知りたい方は青少年課、または勤労青少年ホームまでご連絡ください。

この社会体験活動が、青少年の皆さんの新たな一歩につながるよう今後も取り組んでいきます。

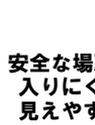


## 福山ばら祭りの『ふれあいコーナー』にて安心・安全の啓発

5月14日(土)15日(日)の、ばら祭りにおいて『子どもの安心・安全ブース』を出展。ばら花壇周辺の4か所のポイントを歩いて「地域安全マップ」についてのクイズを解きながら、地域の安全な場所、危険な場所についての理解を深めてもらいました。



危険な場所は  
入りやすい  
見えにくい



安全な場所は  
入りにくい  
見えやすい

ウォークラリーの記念に「いかのおすし」ファイルをプレゼント。子どもたちが、自分で危険を判断して回避できるように、今後も啓発活動を続けてまいります。



### 青少年育成員・中央青少年育成員委嘱式を行いました

6月11日(土)に、青少年育成員と中央青少年育成員の委嘱式を行いました。対象者は、各学区からの推薦の青少年育成員1,340人と中央青少年育成員72人。

当日は、青少年育成員協議会会長と、中央青少年育成員の方にお集まりいただき、各団体を代表して2名の方に副市長から任免通知書が手渡されました。任期は2年となります。

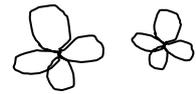
### 第51回『福山市青少年育成市民運動推進大会』開催

7月の「青少年の非行・被害防止全国強調月間」と「社会を明るくする運動」に呼応し、7月16日(土)に推進大会を開催しました。オープニングの早稲田桜子さんのヴァイオリンコンサートの後、神戸親和女子大学の金山健一教授による「今の子どもたちのいじめ・ネット・ライン問題と具体的な対応策～学校・親・地域ができること～」の講演会を行いました。終了後には大会宣言を読み上げ、青少年の健全育成と非行防止を推進する決意を新たにしました。

## 指導員の窓

福山市青少年センターの指導員になって3年目になります。

1年目に先輩の指導員から心構えとして教えてもらった、



『補導とは、子どもたちをただ指導することではなくて、声かけによって子どもたちの健やかな成長のために、補い導くものである』という言葉をお忘れずに、

午前中は福山駅周辺、午後は、福山駅周辺に加えてスクールサポーターが配置されている学校の周辺や大型商業施設を巡回しています。

年間の補導件数ですが、一昨年度は659件、昨年度は515件と、150件近く減少しています。行為別では、少なくなったとはいえ、相変わらず一番多いのは遅刻で、怠学がその次に多く、高校生を中心とした未成年の喫煙は減少しています。補導件数の減少は、中学校や高等学校の生徒指導の充実や進路指導の充実など様々な要因が考えられます。

しかし、子どもたちの中には家庭の問題や友人関係で悩みを持つ子どもも少なくありません。そのような子どもたちの中には学校や親にも相談できないで悩んでいる、そんな気持ちが遅刻や学校へ足が向かないという行為や、スマートフォンのLINEなどで、相手の事をよくわからないながらもつながりを求めて集団化し、ゲームセンターなどで、学校へ行かずに時間をつぶすという行為につながっているのかもわかりません。

私たち指導員は、声かけという行為を通して、その子の表情や声の様子から、短時間ですが話をすることによって、少しでも心の負担が軽くなればと考えています。時には無視され、時には疎まれたりしますが、「あなたは、決して一人じゃない。ここに私たちがいるんだよ」というメッセージをこれからも発信し、子どもたちと繋がっていきたいと思っています。(瀬尾)

## 福山市青少年センター所長より

4月の人事異動によりまして青少年センター所長に着任しました、岡田です。

「青少年は社会を映す鏡である」といわれるように、社会の変化は青少年の意識や行動に大きな影響を与えます。言い換えれば、青少年の問題行動は、現代の大人社会が内部に持つ、さまざまなマイナスの面が複雑にからみあって表れるともいえるのではないのでしょうか。

私たち大人が決して傍観者にならず、子どもたちが発する、いろいろなサイン(SOS)を受け止め、青少年問題に根負けせず、粘り強く対応していくことが求められています。

青少年センターとしても、青少年の健全育成に全力で努めていきますので、地域の皆様方のご理解とご支援をどうぞよろしくお願い申し上げます。



### ..編集後記..

私は、外食をすることが多いのですが、家族で食事をしている微笑ましい光景をよく見かけます。しかし、フードコートや飲食店の中で走り回る子どもに、まったく注意をしない保護者も時折見かけることがあります。子どもはさらにエスカレートし、周囲の人に迷惑となっていきます。きちんと注意をされない子どもは、いけないことだと思わないでしょう。学校の授業中でも、同じことをしていないよう願っています。そのような時には、子どもの目線に降りて、「危ないよ」とやさしく注意できる大人になれば、『地域の子どもは地域で育てる』ことにつながるのかなと思っています。(松岡)